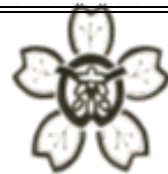


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 986名
令和4年6月1日号



「自律と探究」は未来を築く

校長 田邊 雅也

朝霞市制施行55周年記念式典

5月22日（日）朝霞市民会館ゆめぱれすで開催された「朝霞市制施行55周年記念式典」に参列させていただきました。朝霞市は昭和42年（1967年）から市制が施行されました。55年の歴史を振り返り、功労者の皆様の表彰、ご来賓の皆様からのご祝辞、地域の皆様によるアトラクションなどが行われました。膝折村、朝霞町を経て、朝霞市で生まれ育った皆様のお力添えにより、朝霞市が大きく発展してきていることを感じました。

朝霞市と朝霞第六小学校は同級生

現在の市庁舎がある場所に、川越高等学校朝霞分校（定時制）がありました。市制が施行された昭和42年4月1日付けで、その校舎を使用して朝霞第六小学校が開校されました。児童数が増加したことにより、昭和46年3月13日、現在の場所に新校舎が建設され、移転しました。昭和47年には児童数1000人以上の学校となっています。なお、開校記念日は6月16日と定められました。記憶に新しいと思いますが、55年目を迎える令和3年11月、コロナ禍により大きな行事も開催できないこともあり、開校55周年記念の航空写真を撮影しました。朝霞市と朝霞第六小学校は、共に昭和42年に誕生した同級生、共に55歳です。

未来を築く新たな出発点は、まさに今

明治時代から続く一斉指導の教育が少しずつ形を変え、大正、昭和の教育を迎えます。市政が始まった昭和40年代は、威厳のある先生が教壇に立ち、しっかりと教え込む時代でした。教育のあり方も少しずつ形を変え、平成を経て令和となりました。朝霞市長のご挨拶の中に、「この55周年を朝霞の未来を築く新たな出発点と位置づけたい。」とあります。教育の世界では、教師主導から子供たちの主体的な学びへと大きな転換を図っています。予測が困難で変化の激しい世界を、自分の力で切り拓く人材になってほしいからです。教育の世界も、未来を築く新たな出発点は、まさに今なのです。

「自律と探究」は身に付けてほしい資質・能力

本校は、めざす学校像を「子供は愛されることによってさらに輝く～自律と探究～」とさせていただきます。「自律と探究」という言葉を新しく付け加えています。昭和の教育のように、大人から与えられたことを素直に取り組むことも大切です。しかし、「自律と探究」は、自分で問いを立てたり、自分のレベルに合った学びを選んだり、自分の興味・関心を追究したり、多様な他者と協働したりしながら、自分なりの答えや新たな価値（最適解）を生み出し、ウェルビーイング(※)を目指していくことです。「自律と探究」は、全ての子供たちが身に付けるべき資質・能力です。

「令和の日本型学校教育」は歴史的転換点

国の答申である「令和の日本型学校教育」は、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」です。変化が激しく予測困難な時代に入り、未来を築く子供たちにとって必要な教育のあり方を示しています。

数年前まではタブレット端末の使用なんて想像もできなかったですが、すでに子供たちにとっては文房具と同様になっています。学校の教育活動や家庭・地域での学びなど、教育を取り巻く環境は、歴史的な転換の真っ只中です。今後も変化は続くと思われませんが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

※ウェルビーイング 身体的、精神的、社会的にすべてが良好な状態にあることを意味する概念です。「OECD Learning Compass 2030」でも示されています。 (※)

※OECD 経済協力開発機構です。日本を含めた38ヶ国の先進国が加盟する国際機関です。①経済成長、②貿易自由化、③途上国支援に貢献することを目指しています。生徒の学習到達度調査（PISA）を実施しています。